

第25回摂食障害講演会「摂食障害とともに生きる2025」開催のご案内



第25回 NPO法人のびの会摂食障害講演会 「摂食障害とともに生きる 2025」

日時 : 2025年12月14日(日) 13:00~16:00【開場 12:30】

場所 : 横浜市健康福祉総合センター 4Fホール

参加費 : ¥1,500(会員¥1,000)

内容 : 基調講演及びトークディスカッション

○当事者 3名による体験談

○専門医も一緒に語りたい！

「どうすれば摂食障害と離れるのか ~専門医も聞きたい、その「こころ」~」
講師:瀧井正人先生 (北九州医療刑務所 非常勤医師:前同所長)

○ シンポジストと講師とフロアの皆さんとのディスカッション



摂食障害の実態を見据えての講演会～ダイジェスト～

摂食障害は、一般的に思春期に好発しますが、適切な治療を行うことにより、その半数は短期間に病状が改善し、大体発症前の生活に戻ることができます。

しかし、そこで治らなかった人達は、全く違う人生の入り口に立つことになります。

たとえば低体重や低栄養状態が長く続くと、心と身体の機能自体が低下して、健康な社会生活をおくる機会にも出会えず、意欲もだんだん低下してきます。その結果、食行動の問題が続くだけでなく、うつ状態、様々な依存症も併発して、それらの病気の症状に振り回されたままの生活になってしまいます。そしてその家族もまた、その影響を受けて、心身的、社会的、そして経済的負担を負い続けて、皆が加齢していく…という予後が、近年になって明らかになっています。

そして、何よりも、

他の精神疾患と比較してダントツの死亡率(低栄養による臓器不全、自殺等)の高さが、この疾患の深刻さを示しています。

摂食障害は罹ってはいけない病。

医療現場で、地域社会で、患者さんとそのご家族の全てを長年にわたって具に見てきたからこそ我々の、実直な、そして切実な思いです。

よくなれる、回復の可能性は、きっとどこかにあったはず。

でも、ここまでどれだけ辛い思いをしても、どれだけ大事なものを失っても、症状から離れられないまま、彼女たちは今に至っています。

もし、その理由に気付けていたら。

もし、その為にできた何かがあったとすれば。

「たら・れば」の仮定の過去はおそらくもうどうすることもできません。

しかし、もし今気付けるならば、今できる何かがあるならば、それはきっとこの先の何かにつなげることができるのかもしれません。

既に長患の域に入った患者さんに、「どうしてそう思うの？」「何のためにそれをするの？」と、今回お招きする講師の先生は、とてもシンプルに、しかしストレートに問われます。すると、なぜか先生への回答ではなく、自分の「こころ」に問う勇気をもらった気持ちになれるのです。

『逃げないでいい。大丈夫だから。』 穏やかな語り口に、大事な事実をしっかり込められる先生をお迎えし、

一人ではきっと導きだせないその答えを、講師の先生と、同じく登壇する同志と、そしてご来場いただく皆様と一緒に考えます。

ご本人やご家族、支援者の方々はもちろん、摂食障害以外でも、長く心の病に悩まれている方は是非お誘いあわせのうえ、「こころに問う」経験をしに、会場に足をお運びください。

出演者のご紹介

<講師>

瀧井 正人 (たきい まさと)

1977年早稲田大学第一文学部卒業。1987年九州大学医学部卒業、同心療内科入局。九州大学病院心療内科講師を経て、2013年より北九州医療刑務所勤務。2014年4月～2019年3月まで同所長。2019年4月より現職。

専門は心身医学(心療内科)、摂食障害、糖尿病。著書に、『摂食障害という生き方』(中外医学社、2014)、『摂食障害との出会いと挑戦－アンチマニュアル的鼎談』(岩崎学術出版社、2014、共著)

